

Chenopodiad type であるが、原根層は、エゴノキ科は cd 層の上部細胞群から分化するが、ハイノキ科では cd 層の下部細胞群から分化する。また成熟した胚の形は著しく湾曲した細長い胚軸をもち、子葉が小さいが、これもエゴノキ科の胚と著しく異っている。エゴノキ科の種子は種皮がよく発達し、堅い石細胞からなる厚い種皮は、果皮から容易にはなれるが、ハイノキ科では種皮はごく薄く、中果皮が堅くなって種子を包み、肉質の外果皮をとりさってでてくる、種皮のようにみえるものは、中果皮の発達したものである。

### Explanation of Plate XXV

- Symplocos chinensis* 1: Longitudinal section of the young flower.  $\times 40$ .  
 2: Young fruit having one developing seed and two degenerated ones.  $\times 20$ .  
 3: Young embryo.  $\times 225$ . 4: Young embryo.  $\times 120$ . 5: Young embryo showing initials of the root cortex and the central cylinder, same with fig. 4.  $\times 350$ . 6: Mature embryo.  $\times 20$ .

□津山 尚・浅海重夫編：小笠原の自然 The Nature in the Bonin Islands。原色写真 228 頁，解説 271 頁。広川書店，昭和 45 年 10 月，9,800 円。1968, 1969 年の 2 回にわたる，東京都及び厚生省による，小笠原諸島自然公園調査団の成果を中心に，同島の自然を紹介したものである。戦後のまとまった報告としては，東京都・厚生省の小笠原諸島自然景観報告書（1969, 1970）と文部省・文化庁の小笠原の自然（1970）とがあるが，これらは学術報告書である。一般向を目的として書かれたものは，戦前もふくめて始めてである。気候，海洋，地形・地質，植物，陸上動物，海中生物，魚類，火山列島・西之島，人文，などの各章にわかれ，原色写真のほかにも豊富な図版，白黒写真があつてくわしい解説書であるが，同時に戦後 20 数年，全く入手が入らずに放置されていた小笠原を十分に記録していることは貴重である。現在の小笠原の調査はギンネムの密林や，殆んど歩行不能のタコズルの草原を切開きながら行うので，なかなか大変である。特に母島の乳房山から石門山にかけての調査は，水をもとめる所もない熱い熱帯の尾根を，道を作りキャンプしながらの調査は並大抵のものではなかったと思う。私も津山氏等の調査の一週間後，母島で氏等の作られた道を利用させていただいたが，それでも大変であった。水場まで往復 2 時間の道を幾度も上下し，方角もわからない密林に道をつけキャンプを設営して研究を援助された，調査団員の方々の努力が，本書のささえになっているのである。解説と原色写真とが別冊になっているのは，利用するものにとっては不便であり，本をながめる楽しみも半減するのは残念である。動物の原色写真はみごとであるが，それにくらべると植物にはやや見劣りするものが目立つのは，苦勞の多い調査なのでやむをえないことと思うが，植物を中心として利用するものには惜まれる。

(山崎 敬)